80 武家の府 鎌倉の盛衰 歴シルキーワード 晴れて鎌倉

戦百晴れ(1180)て鎌倉凱旋 〈頼朝 源氏再興へ挙兵 鎌倉へ入る〉

◆平安時代 治承4年 庚子 第81代安徳天皇 〈院政〉高倉上皇

凱旋の地は源氏ゆかりの鎌倉

伊豆に配流されて二十年、源頼朝(34)は以仁王(30)の令旨により、平氏討伐に立ち上がり、安房から下総・武蔵をまわり関東武者を傘下に従え鎌倉へ凱旋する。

高祖父源義家が東国を治めた「後3年の役(1083~87年)」から約100年、頼朝は武家の都として鎌倉を選んだ。

鎌倉に入ると由比若宮を遷座
小林郷北山に鎌倉八幡宮を造営

武神の象徴八幡神を祀る鎌倉

源頼朝が鎌倉に凱旋する150年前、東国で起きた平忠常の乱(1028年)を鎮圧したのが源頼信(河内源氏初代棟梁)・頼義親子だった。※1この時頼義が鎌倉を所領する平直方の娘を娶り、誕生したのが源義家である。その後、頼義が義家を伴い「前九年の役」安倍氏討伐に勝利、鎌倉に凱旋し建てたのが由比若宮(元八幡)である。

月	日	主な出来事
2	21	高倉天皇、言仁親王(安徳天皇)に譲位。
4	9	以仁王が平氏追討の令旨を諸国に発す
27		頼朝、以仁王の令旨受取る
5	26	源頼政、以仁王、平氏と宇治で合戦。戦死。
6	2	平清盛、福原へ遷都。
8	17	①頼朝、山木兼隆を討ち平家討滅に挙兵。
	23	②石橋山の合戦。大庭景親軍を前に敗走。
	29	③頼朝、真鶴より海路安房へ渡る
9	3	④小山・下河辺・豊島・葛西らに呼びかけ
	4	⑤上総広常、千葉常胤へ使者を送る
	7	源義仲、信濃国で挙兵。
	10	甲斐源氏武田信義挙兵
	17	⑥千葉常胤と参会
	19	⑦上総広常と参会
	22	平氏方の目代や豪族を撃ち進軍
10	6	平維盛の頼朝追討軍が福原を立つ
	8	⑧頼朝軍数万騎が鎌倉へ凱旋
	20	⑨富士川の戦い 平氏軍潰走
	21	頼朝、黄瀬川で義経(22)と対面
11	17	頼朝、和田義盛を侍所別当に

ひとつ晴れ(1280)乞う鎌倉幕府 〈北条時宗 鎌倉で蒙古来襲の防備会議〉

◆鎌倉時代 弘安3年 庚辰 第91代後宇多天皇 7代将軍惟康親王 8代執権北条時宗

時宗 祖元と蒙古対策を練る

執権北条時宗(30)は、前年来日した南宋の禅僧 無学(子元)祖元(55)を招き大陸情報を含め蒙古来襲の対策を教示される。時宗は諸経を血書し国土の保安と必勝を仏天に祈った。

翌年弘安の役6月元が再び日本を来襲。

2年後の弘安5年、時宗は蒙古来襲の戦死者の霊を弔うために円覚寺を創建。開山は無学祖元。

◇鎌倉への道中記『十六夜日記』

藤原為家の側室で女流歌人でもある阿仏尼は京から鎌倉へ下り、紀行文を記す。(成立は弘安5年頃)

監修 高尾 隆

※1 鶴嶺八幡宮…1130年源氏が関東へ進出する際、頼義が乱の鎮定を祈り石清水八幡を勧請した氏社が鶴嶺八幡宮(茅ヶ崎市)。

歴シル 鎌倉室町400

1580年（天正8年）
「信長 石山本願寺と講和 顕如退去」

いざ晴れ（1380）て鎌倉公方 東国専念 〈足利氏満 将軍義満に屈す〉

◆南北朝時代 天授6年（康暦2年）庚申 第98代長慶天皇（第5代北朝:後円融天皇）3代将軍足利義満

京都への野心を持ち続ける鎌倉公方

2代将軍義詮（よしあきら）と初代鎌倉公方足利基氏（もとうじ）は心の通じ合う兄弟あり、京―鎌倉は良好な関係を築いていた。しかし2代目以降の鎌倉公方は、将軍の地位に野心を抱き、政治的補佐を行う関東管領上杉氏が常に間を執り成す緊張感のある関係が続いた。

鎌倉公方 東国の府の地位を築く

前年3代将軍義満(23)（義詮の子）への叛逆を企てた2代鎌倉公方足利氏満(22)（基氏の子）は管領上杉憲春の諫死※2で思いとどまり、野望を封じてこの年、小山義政の追討を関東の諸将に命じた。氏満が小山氏を滅ぼしたことで鎌倉府は東日本の支配体制を確立した。

小山義政の乱…下野国小山義政が公方氏満の制止を無視して、競合する宇都宮基綱を討ったことから始まる争い。翌年末降伏するも6年後逃亡していた嫡男若犬丸が反乱を起こす。その後北関東・南奥羽を転々と逃げては反乱を繰り返し1397年会津で果てる。

小山氏その後…氏満は小山の名跡を惜しみ庶流の結城氏に継がせる。その後享徳の乱で再び滅びるも古河公方に付き復活。だが天正年間、北条氏に侵攻され完全滅亡。

一夜晴れ（1480）ても遠い鎌倉 〈古河公方足利成氏 鎌倉再起の夢遠く〉

◆室町時代 文明12年 庚子 第103代後土御門天皇 9代将軍足利義尚

関東も戦国時代へ 消えゆく武門の府 鎌倉

4代鎌倉公方持氏（もちうじ）が永享の乱（1439年）で敗れて以来、途切れていた鎌倉へ返り咲いた5代足利成氏（しげうじ）と管領上杉憲忠との関係は上手くいかず、享徳3年（1454）成氏が憲忠を殺害するに至り、関東は動乱の時代に突入する（享徳の乱）。幕府は関東管領を支持、今川範忠に成氏攻撃を指示、成氏は鎌倉を放棄、下総古河に拠点を移し古河公方となった。以後古河方の関東諸将と上杉方幕府の戦いは30年程続いた。文明10年（1478年）扇谷・山内両上杉氏と和睦を結び、さらにこの年成氏(43)は幕府管領細川政元に幕府との和解斡旋を依頼、2年後幕府と和睦が成立（都鄙（とひ）合体）する。

1457年足利義政の弟、政知を新たな鎌倉公方の後釜に派遣　鎌倉に入らず伊豆堀越に駐留。1493年北条早雲に滅ぼされる。

頼朝から300年荒廃した鎌倉は二度と政局の舞台になることはなかった

※2 1379年に起きた康暦の政変に乗じ、上洛して将軍義満を討とうと企てた氏満を管領上杉憲春が諫書を残して鎌倉で自害した。